

〔 競技注意事項 〕

1. 本大会は 2023 年度日本陸上競技連盟規則ならびに本大会要項によって行う。本大会は、日本陸上競技連盟公認競技会として実施するが、ワールドアスレティックス (WA) のワールドランキングコンペティション (WRk 対象競技会) としては実施しない。そのため、競技会で出された記録は国内の公認記録として認められるが、WA ワールドランキングや国際大会 (オリンピック・世界選手権など) の参加資格など、WA 記録集計の対象とはならない。なお、スタートに関しては国内ルールを適用する。

2. 学校受付について

各校引率顧問は、2 日間とも競技開始 30 分前までに受付をすませしておくこと。

(顧問の受付がない場合は選手の大会参加は認められない)

3. アスリートビブスについて

競技者はアスリートビブスを胸部・背部に確実につける。ただし、走高跳・棒高跳は胸・背いずれか一方でよい。走幅跳・三段跳は胸につけるだけでもよい。

4. 招集について

(1) すべての種目において、競技時間記載の招集時間に招集所 (競技者係室前) にて招集を受ける。

(2) トラック競技

・400m までの距離種目 (スタートからフィニッシュまですべてセパレートレーンで行われる種目) については、腰ナンバー標識は使用しない。それ以外の種目については該当の腰ナンバー標識を招集時に受け取る。

・5000m と 5000m 競歩については、腰ナンバー標識とともに胸用 (5000m・5000m 競歩) と背中用 (5000m 競歩のみ) のビブスも受け取る。

・リレーについては 4 人揃って招集を受ける。リレー種目の予選のオーダー用紙は、招集時に提出する。決勝のオーダー用紙は、招集完了時刻の 1 時間前までに提出すること。オーダー用紙は招集場所で配付する。選手のユニフォームの形状を統一しなくてもよい。但し、デザイン、配色は統一すること。オーダー用紙提出後の変更については、総務・医務係の了承のうえ、招集所に申し出ること。

・招集完了後は、スタート時間 10 分前にスタート地点に集合し、最終コールを受ける。

(3) フィールド競技

・招集完了後は、招集完了時間をめどに競技場所に集合し最終コールを受ける。(最終コール後はそのまま公式練習・競技へと移行するため、競技に必要な用具はすべて持参する)

(4) 招集開始時刻および招集完了時刻は、当該競技開始時刻を基準とし、次のとおりとする。

	<招集開始時刻>	<招集完了時刻>
トラック競技	40 分前	20 分前
跳躍競技	50 分前	30 分前
(棒高跳のみ)	80 分前	60 分前)
投てき競技	50 分前	30 分前

(5) 招集完了時刻に遅れた競技者は棄権と見なし処理する。

5. 走路順・試技順について

(1) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の番号順とする。

(2) 欠場者のレーンは空ける。ただし 800m は出発係の指示による。

(3) 選手の変更は一切認めない。ただし、リレー競技はこの限りではない。

6. 競技について

- (1) 同一選手がトラック競技とフィールド競技を同時刻に兼ねて行う場合は、トラック競技を優先とし、フィールド競技は同一ラウンドにおいて競技役員の許可を得て順序を変更することができる。なお、トップ8の6回目については変更することができない。
- (2) セパレートレーン使用の競技では、フィニッシュした後も他の競技者の安全のために、自分の割り当てられたレーン<曲走路>を走るものとする。
- (3) 800m以上の距離種目については腰ナンバー標識を使用する。使用した腰ナンバー標識はレース終了後直ちに東器具庫前の係に返却すること。
- (4) 男子走幅跳、男子三段跳、女子走幅跳はA・Bピットで実施する。
- (5) 男子三段跳の踏み切り板は10m、女子三段跳の踏切板は7m・9mで行う。ただし、審判長の判断で変更することもある。
- (6) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方については以下のとおりとする。ただし、審判長の判断で変更もあり得る。

走高跳	男子	練習(1.55・1.75)	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	以後 3cm
	女子	練習(1.15・1.40)	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	以後 3cm
棒高跳	男子	練習(2.50・3.20・3.60)	2.60	2.80	3.00	3.20	以後 10cm		
	女子	練習(1.80・2.20・2.60)	1.80	2.00	2.20	以後 10cm			

- (7) ハンマー投は、6位までの入賞者で県総体参加標準記録（男子33m、女子23m）未満の競技者に決勝後3回の追加試技を与えることができる。追加試技で標準記録を超えた場合には県大会に出場できる。
- (8) 棒高跳、円盤投、ハンマー投については天候不良の場合、翌日に変更することがある。

7. 競技の番組編成について

- (1) トラック競技の準決勝以降の進出者の発表は、アナウンスすると共に記録発表用 X (旧 twitter) に掲載する。
- (2) トラック競技で同記録の場合、写真判定で着差があれば着順を優先する。
- (3) トラック競技のプラス取りの決定については、記録の上位の選手から取る。同記録の場合は1000分の1秒までの判定により進出者を決定する。それでも決まらない場合は抽選を行う。

8. 抗議について

抗議がある場合には、記録が記録発表用 X (旧 twitter) に掲載された時間を基準とし、次のラウンドがある場合は15分以内、次のラウンドがない場合は30分以内に本部（総務員）に口頭で申し出る。

9. 競技場使用について

- (1) スパイクピンの長さは8mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。
- (2) 競技に使用する器具はすべて主催者が用意したものを使用する。ただし、「棒高跳用ポール、やり」については個人の物を使用することができる。「やり」は、競技開始1時間30分前から1時間前までに本部にて検定を受けること。
- (3) 清掃・ゴミ処理は、各学校・各自で責任をもって行い、環境美化に努める。
- (4) 各団体の控え場所は、スタンド・国旗掲揚塔を除くトラック外周を使用可とする。

10. ウォーミングアップについて

- (1) 競技開始前のウォーミングアップは8時から競技開始の15分前までとする。長距離が1・2レーン、ハードルは外側2レーンを使用する。ハードルを使った走練習はトラック以外では禁止する。特に、ホームストレートと第4コーナー出口付近では接触の危険性が非常に高いので、係の指示に必ず従うこと。ジョギングに関してはトラックの外側で競技会準備の支障にならないように行うこととする。
- (2) 競技中のトラック使用のウォーミングアップは下記の条件付きで認める。
 - ① 場所：第1曲走路の中間地点から200mのスタート地点手前で完全に停止すること。

- ② レーン：6・7・8(競歩競技の時間帯は7・8レーンのみ)
 - ③ 種目間、組間の空白時間帯で準備に支障をきたさない時
 - ④ 可能な種目の時間帯：100m、200m、100mH、110mH、1500m、3000m、5000m、5000mW
- (3) 投てき競技における競技前・競技中の練習で使用できる器具はタオル等、人に危害を加えないものに限る。
- (4) やりの突き刺し練習、砲丸の打ち付け練習は禁止する。

11. 電気計時・写真判定装置が作動しなかった場合の措置について

①短距離種目

判定可能なレース結果より上位8名を選出する。それに判定できなかった組の選手全員を加えて準決勝・決勝(タイムレース決勝方式)を行う。

②中・長距離種目

周回記録員の手動計時によるバックアップ計時を採用する。

12. その他

- (1) 記録の発表は上位競技者のみ放送にて行う。記録の掲示は行わないが、本大会記録発表用 X(旧 twitter)に期間限定で掲載する。アカウントについては当日受付にて通知する。なお、後日リザルトを愛知県高体連陸上競技専門部 HP に掲載する。
- (2) 本部前は通行禁止とする。
- (3) 競技場の物(ハードル等)を勝手に使用しない。
- (4) その他、競技役員の指示があった場合はその指示に従う。
- (5) 氏名、所属等がプログラムの印刷と異なる場合は、早めに本部の庶務担当に申し出て訂正すること。
- (6) 競技中に生じた事故について、応急処置はするが以後の責任は負わない。
- (7) 表彰については各種目6位、総合は6位、トラックの部、フィールドの部は3位まで行う。
- (8) 県大会の申し込みについては、2日目終了までにスタンド下西側(競技者係室)で行うこと。それ以後は棄権と見なす。
 - ・シード選手は、支部予選会の結果・出場の有無にかかわらず、県大会に出場することができる。
 - ・県大会出場者は、シード選手を除く6位とする。但し、走高跳・棒高跳は6位6名とする。シード選手が支部予選会に出場し、入賞した場合は、総合成績に加点する。
 - ・県大会に不出場することが分かっている選手がいる顧問は速やかに副委員長吉川まで申し出ること。
 - ・ハンマー投は、入賞者のうち男子33m、女子23mに達している選手とする。
 - ・競歩は、入賞者のうち男子28分・女子33分以内の選手とする。

シード選手一覧

「男子」走高跳	伊藤 望丞 (誠 信)	「女子」ハンマー投	向井 祐月 (修文学院)
走幅跳	宮本 恭伍 (一 宮)		
走幅跳	栗生 彰宏 (西 春)		
円盤投	白木 康介 (修文学院)		
やり投	有本 光希 (修文学院)		

- (9) 監督・コーチ・顧問は競技中にカメラ・ビデオの映像を競技に支障がないようにスタンド・芝生スタンドから見せることができる。ただし、競技場に持ち込むことはできない。もし、競技に支障をきたした場合は直ちに禁止とする。

(10) カメラ・ビデオ等の撮影について

- ◆ 選手の人権保護の観点から、写真・ビデオ撮影について、以下の点にご協力ください◆
- ※ 撮影を許可するエリアは、スタンド・芝生スタンドのみとします。禁止された区域での撮影はできません。
 - ・ 本部前
 - ・ 各種目のスタート後方
 - ・ 走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳の助走後方・着地前方
 - ・ 走高跳マットに向かった正面（クリアランス動作中）
 - ※ 保護者及び本人の了解がない撮影を禁止します。
 - ※ 競技者がスターティングブロックの足合わせをしたり、試技を待っている間や、身体を動かしているなどの準備の行動の撮影は禁止します。
 - ※ 他人に著しく迷惑をかける行為として主催者で判断した場合は、すみやかに警察および関係機関に連絡します。